

島根県邑智郡瑞穂町

町内遺跡発掘調査等報告書



2000年3月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は遺跡の町といわれるよう、多くの埋蔵文化財が町内各地に点在しております。これらの貴重な文化財の保存保護、活用のため、分布調査や発掘調査を実施しているところであります。

この度、国及び県の補助を受けて瑞穂町和田地内の遺跡詳細分布調査及び順施原B遺跡並びに長尾原遺跡の発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代の住居跡をはじめとして貴重な資料を得ることができました。この報告書は、その調査結果をまとめたものであり、広く各方面でご活用いただければ幸いです。

なお、調査に当たりご指導いただいた広島大学文学部河瀬正利先生、島根県文化財保護指導委員吉川正氏、島根県教育委員会文化財課をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げる次第であります。

平成12年3月

瑞穂町教育委員会

教育長 三宅 正隆

例　　言

1. 本書は、平成10年度及び11年度に文化庁及び島根県教育委員会の補助を受け町内遺跡発掘事業として実施した、町内遺跡詳細分布調査及び順庵原遺跡並びに長尾原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は瑞穂町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆及び編集は藤田睦弘が実施した。
4. 本書掲載の図面は藤田睦弘が作成し、市山眞由美が斎書した。
5. 本書掲載の遺構写真撮影は藤田睦弘が行い、遺物写真撮影は吉川健二が行った。
6. 本書掲載の25,000分の1地形図は、国土地理院の承認を得て同院発行の地形図を複製した瑞穂町管内図（承認番号平71中複第276号）を使用したものである。
7. 本書掲載の地形図に表示したX軸、Y軸は国上測量法による第III座標系の軸方向である。また、地形測量図、遺構測量図の矢印は真北を示している。
8. 本書で使用した遺構及び遺物の略号は次のとおりである。
SI-堅穴住居跡、SK-土坑、SD-溝状遺構、SA-柵列状遺構、P-ピット、ST-石器、J-縄文土器
Y-弥生土器、H-十箇器、SU-須恵器
9. 調査記録及び出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。
10. 地形測量を(株)測地技研に委託した。

島根県邑智郡瑞穂町
町内遺跡発掘調査等報告書

目 次

序	頁
I. 調査に至る経緯	1
II. 位置と環境	3
III. 調査の概要	
1. 瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査	6
2. 順庵原B遺跡発掘調査	11
3. 長尾原遺跡発掘調査	25
IV. まとめ	31

図版目次

- 図版第1 a. 瑞穂町大字和田狼原遠景(南西から) b. 同近景(西から) c. 出土遺物
図版第2 a. SK-01検出状況(北から) b. 同断面土層(南から) c. 同完掘状況(同)
図版第3 a. 第2試掘区土層(南から) b. 第18試掘区上層(同) c. 調査の様子
図版第4 a. 順庵原B遺跡遠景(南西から) b. 同近景(北から) c. SD-01検出状況(東から)
図版第5 a. SD-01完掘状況(東から) b. SA-01完掘状況(同) c. SI-01検出状況(南東から)
図版第6 a. SI-01土層(北から) b. 同遺物出土状況(同) c. 中央SK検出状況(北西から)
図版第7 a. 中央SK断面土層(北東から) b. 同完掘状況(北西から)
 c. SI-01a壁溝検出状況(北から)
図版第8 a. SI-01完掘状況(北から) b. SI-02検出状況(北西から) c. 同上層(北から)
図版第9 a. SI-02遺物出土状況(南から) b. 同上師器出土状況 c. 同完掘状況(東から)
図版第10 a. SI-01出土遺物 b. 同 c. 同
図版第11 a. SI-01出土遺物 b. 同 c. 同
図版第12 a. SI-01出土遺物 b. 同 c. SI-02出土遺物
図版第13 a. SI-02出土遺物 b. 造構に伴わない出土遺物 c. 同
図版第14 a. 造構に伴わない出土遺物 b. 同 c. 同
図版第15 a. 造構に伴わない出土遺物 b. 同 c. 同
図版第16 a. 平成11年度調査出土遺物 b. 平成10年度調査説明会の様子 c. 同
図版第17 a. 長尾原遺跡遠景(西から) b. 同近景(東から) c. SK-01断面土層(北から)
図版第18 a. SK-01完掘状況(北から) b. 第4試掘区土層(同) c. 第10試掘区土層(同)
図版第19 a. 第14試掘区土層(北から) b. 第22試掘区上層(同) c. 調査の様子

挿図目次

第1図	瑞穂町域と発掘調査箇所位置図	2
第2図	発掘調査箇所周辺の遺跡分布図(1:25,000)	5
第3図	山上遺物実測図(1:3)	6
第4図	SK-01 実測図(1:60)	6
第5図	瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査地形測量図・試掘区配図	7~8
第6図	瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査試掘区上層図	9~10
第7図	順庵原B遺跡発掘調査前地形測量図・調査区設定図	13~14
第8図	順庵原B遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配図	15
第9図	SD-01・SA-01 実測図(1:60)	16
第10図	SI-01 実測図(1:60)	17~18
第11図	SI-01 出土遺物実測図(1)(1:3)	19
第12図	SI-01 山上遺物実測図(2)(1:3)	20
第13図	SI-01 出土遺物実測図(3)(1:3)	21
第14図	SI-02 実測図(1:60)	21
第15図	SI-02 山上遺物実測図(1:3)	21
第16図	遺構に伴わない遺物実測図(1)(1:3)	22
第17図	遺構に伴わない遺物実測図(2)(1:3)	23
第18図	順庵原1号墓周辺試掘調査山上遺物実測図(1:3)	24
第19図	順庵原1号墓周辺試掘調査地形測量図・試掘区配図	24
第20図	順庵原1号墓周辺試掘調査試掘区上層図(1:60)	24
第21図	SK-01 実測図(1:60)	25
第22図	長尾原遺跡地形測量図・試掘区配図	25
第23図	長尾原遺跡試掘区上層図	26

表目次

第1表	平成10年度瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査山上遺物観察表	27
第2表	平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表(1)	27
第3表	平成10年度順庵原B遺跡山上遺物観察表(2)	28
第4表	平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表(3)	29
第5表	平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表(4)	30
第6表	平成11年度順庵原B遺跡出土遺物観察表	30

I. 調査に至る経緯

過疎化と高齢化が進む瑞穂町は、若者の定住と雇用促進のため様々な開発事業を実施している。このような状況の中、本町では瑞穂町大字和田狼原地内の開発について検討することとなった。しかし、遺跡の存在が予想されたため、計画策定に先立ち、国及び県の補助を受けて平成10年、11年度の2年間で遺跡範囲確定のための詳細分布調査を実施することとした。

さらに、平成10年度に本町大字上龜谷地内に所在する順庵原B遺跡内に個人住宅と墓地の建設が、そして、平成11年度には本町大字下龜谷地内に所在する長尾原遺跡内に個人住宅の建設がそれぞれ計画された。瑞穂町教育委員会は島根県教育委員会と協議し、利田地区の詳細分布調査にあわせてそれぞれの遺跡の発掘調査を行うこととした。また、これらに加え順庵原B遺跡のうち本町大字上龜谷に所在する順庵原1号墓に隣接し、以前から2号墓の存在の可能性が指摘されていた箇所についても、試掘調査を行い遺構の有無について確認した。

調査は次の調査体制で行った。

平成10年度調査体制

調査主体 瑞穂町教育委員会

調査員 森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）

藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主幹）

調査指導 河瀬正利（広島大学文学部教授）

吉川 正（島根県文化財保護指導委員）

島根県教育委員会文化財課

事務局 三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）

河野義則（瑞穂町教育委員会教育課長）

野田律子（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

平川 進（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

発掘作業 飯石サツミ、石川義明、石原千枝子、今田徳朗、国信勇之進、久保田孝子、佐藤三郎
洲浜軍太郎、高川秀夫、高梨数男、戸津川里美、戸津川孝夫、野田正治、野村重子
久光花枝、口高一人、日高武司、日高政雄、古川健二、松川福義、松島利郎
三上カメノ、森出ユキエ

整理作業 市山眞山美

平成11年度調査体制

調査主体 瑞穂町教育委員会

調査員 森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）

藤田暉弘（瑞穂町教育委員会主幹）

調査指導 河瀬正利（広島大学文学部教授）

吉川 正（島根県文化財保護指導委員）

島根県教育委員会文化財課

事務局 二宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）

越間弘幸（瑞穂町教育委員会教育課長）

日高幸二（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）（10月まで）

平川 進（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

石橋 哲（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）（11月から）

発掘作業 飯石サツミ、石川義明、石原千枝子、石原八重美、今田徳朗、漆谷勉、国信勇之進
久保田孝子、桑元ミスエ、佐藤三郎、下石見晃於、洲浜軍太郎、高川秀夫、高梨数男
上佐房之助、戸田かおり、戸津川孝夫、中桐信枝、久光花枝、日高一人、日高政雄
日高房雄、松島利郎、三上カメノ、森田ユキエ

整理作業 市山眞由美

なお、発掘調査を円滑に進めるために地権者の岡田正氏、洲浜昌利には多人なご配慮とご協力

をいただいた。また本書の作成について、桑野直人氏、木邑恂氏、
富永公美氏、山本史朗氏、三上憲昭氏、井坂猛氏、奥田貞隆氏（以上瑞穂町文化財保護審議会委員）、
牧田公平氏（邑智町教育委員会）、角矢永嗣氏（羽須美村教育委員会）
からご教示をいただいた。記して謝意を示したい。



第1図 瑞穂町域と発掘調査箇所位置図

II. 位置と環境

島根県邑智郡瑞穂町は、島根県のほぼ中央部の邑智郡南部に位置する。南西には中国脊梁山地が連なり、山地を境として広島県と接している。町域のほぼ中央を出羽川が東流し、その出羽川に向かって亀谷川、岩屋川、円ノ板川などの支流が注いでいる。出羽川とその支流の流域には、沖積地や河岸段丘が形成されており、特に瑞穂町田所から出羽にかけてはかなり広い出羽盆地が発達している。今回調査を行った遺跡はいずれも出羽盆地の南側の河岸段丘面に位置しており、特に、順庵原遺跡や長尾原遺跡は弥生時代から歴史時代にわたる山間部ではまれにみる大遺跡として広く知られている。

瑞穂町は550カ所以上の遺跡が確認されている。その半数以上の約300カ所が製鉄関連遺跡であるが、横道遺跡をはじめとして旧石器時代から歴史時代にいたる幅広い時代の遺跡の存在が知られている。

旧石器時代の遺跡は、横道遺跡（高見⁽¹⁾）、荒横遺跡（岩屋⁽²⁾）及び堀田上遺跡（市木⁽³⁾）の3カ所が知られており、約2万年以前から瑞穂町域に人々が生活はじめたことを物語っている。

続く縄文時代の遺跡としては、横道遺跡、長尾原遺跡（下亀谷・淀原）、大畑遺跡（大草）及び大字根遺跡（伏谷）が以前から知られていたが、近年の発掘調査により郷路橋遺跡（市木⁽⁴⁾）、今佐屋山遺跡（市木⁽⁵⁾）、堀田上遺跡⁽⁶⁾、道城遺跡（上危谷⁽⁷⁾）、野田西遺跡（上危谷⁽⁸⁾）、順庵原遺跡（上亀谷・下亀谷⁽⁹⁾）、沢陸遺跡（淀原⁽¹⁰⁾）及び川ノ免遺跡（川H⁽¹¹⁾）の存在が明らかになった。

ほとんどの遺跡は出土遺物から早期のものと思われるが、郷路橋遺跡では前期のものとみられるトチの実貯蔵穴や晚期の住居状の遺構が検出されたほか、早期、前期、後期及び晚期の土器が出土している。また、道城遺跡からは後期の上器が1点出土しているのみで、他の時期の土器は出土していない。

弥生時代になると遺跡数も増え、堀田上遺跡、牛塚原遺跡（上亀谷）、野田西遺跡、順庵原遺跡、長尾原遺跡、淀原遺跡（淀原）、沢陸遺跡、川ノ免遺跡及び石堂遺跡（和田）等の遺跡がある。

堀田上遺跡、牛塚原遺跡、順庵原遺跡、及び淀原遺跡からは弥生時代前期の上器が出土しており、山間地域でも弥生時代前期から農耕が始まっていたことを示している。弥生時代後半になると遺跡数も増加し、出土遺物も豊富になってくる。人口も増え、それを支える農耕も町域全域で広く行われていたと考えられる。こうして社会が安定し物質的に豊かになるにつれて、弥生社会も階層分化し、共同体の首長墓と考えられる順庵原1号墓（下亀谷）や御華山墳墓（錦瀬⁽¹²⁾）が築造された。このうち順庵原1号墓は、わが国初の四隅突出型埴輪の調査例となった。また、御華山墳墓は長尾原遺跡と出羽川を挟んだ対岸の段丘上に位置している。

古墳時代の遺跡のうち、集落跡としては狼原遺跡（和田）、宇山遺跡（上原）、川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡、今佐屋山遺跡などがある。このうち、1968年の長尾原遺跡の調査では堅穴住居跡や上坑墓が検出され、さらに鉄に関する遺構が発見された。また、1989年に調査された今佐屋山遺跡からも堅穴住居跡と製鉄遺跡がみつかっており、製鉄・鍛冶が古墳時代後半には始まっていたことを示している。

古墳は20カ所以上確認されているが、その大部分は終末期に築造された小円墳と横穴である。前半期の古墳と思われるものには段ノ原古墳（高見）、淀川古墳群（三日市）及び御華山古墳群（鰐淵）がある。

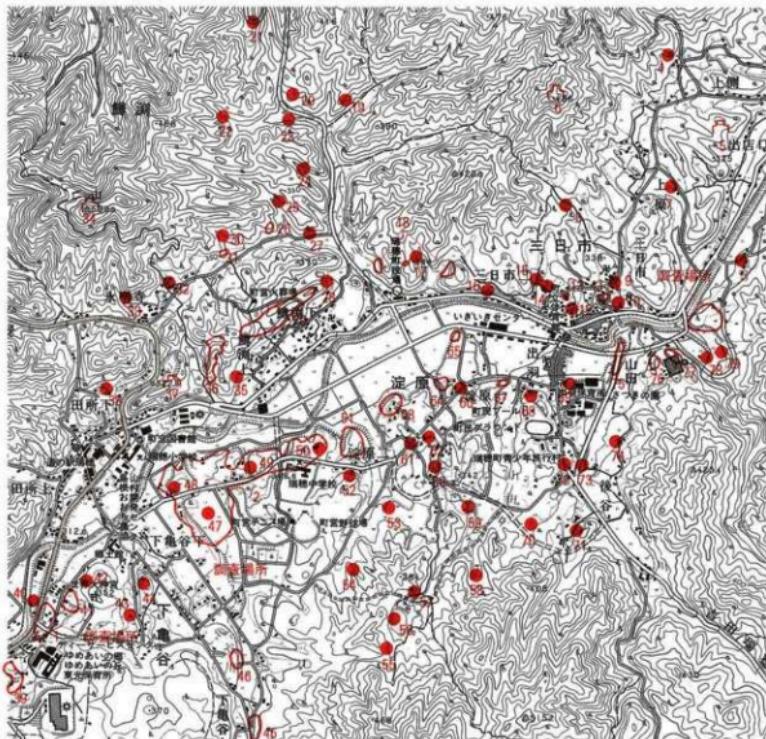
奈良時代の遺跡のうち、発掘調査により住居跡が検出されたものに川ノ免遺跡⁽¹⁾、野田西遺跡及び大金谷遺跡⁽²⁾がある。検出した住居跡のはほとんどに煙道を備えたつくり付けのカマドが設けられている。このほか、古墳時代から奈良、平安時代にわたる須恵器の窯跡も数多く確認されている。久永古窯跡群はその代表的な遺跡で、島根県内有数の須恵器产地であったといえる。

中近世になると、山城や砦跡、そして多くの製鉄遺跡が確認されている。なかでも鎌倉時代に宮永（山羽）氏が築城したと伝えられ、山羽盆地を北から見おろす二ヶ山城は規模、構造とも島根県内では屈指の遺跡であり、瑞穂町のシンボルとして広く町民に知られている。

また、中近世の製鉄遺跡は300カ所近くが確認され、製鉄が盛んに行われていたことをあらわしている。

註

- (1) 河瀬正利『横道跡－詳細分布調査－』瑞穂町教育委員会 1983年
- (2) 吉川 正「瑞穂町の遺跡」「瑞穂町誌」第3集 瑞穂町教育委員会 1976年
- (3) 島根県教育委員会『主要地方道浜田八重可部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』 1991年3月
- (4) (2) と同じ
- (5) 島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書III』 1991年3月
- (6) 島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書IV』 1992年3月
- (7) (3) と同じ
- (8) 瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概要－』 1995年3月
- (9) (8) と同じ
- (10) 瑞穂町教育委員会『船尾原遺跡発掘調査概要書』 1995年9月
- (11) 瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』 1996年10月
- (12) 瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』 1996年3月
- (13) 東森市政『四隅尖出型埴丘墓』ニューサイエンス社 1985年
- (14) 瑞穂町教育委員会『御幸山癒生式埴丘墓調査概要』 1969年2月
- (15) 島根県川本農林土木事務所『農面道新設に伴う長尾原遺跡及長尾原一号墳調査概要』 1969年2月
- (16) (6) と同じ
- (17) (12) と同じ
- (18) (8) と同じ
- (19) (8) と同じ



第2図 発掘調査箇所周辺の遺跡分布図（1：25,000）

- | | | | |
|---------------------|-------------|-------------|---------------|
| 1. 順庵原B遺跡 | 20. 定入遺跡 | 40. 順庵原墳墓群 | 60. 秋広窯跡 |
| 2. 長尾原遺跡 | 21. ロクロ谷遺跡 | 41. 順庵原A遺跡 | 61. 前曾根瓦窯跡 |
| 3. 大番原瓦窯跡 | 22. 桜ヶ谷窯跡 | 42. 地蔵院跡 | 62. 淀原古墳 |
| 4. 鉄穴原鉢跡 | 23. 定入窯跡 | 43. 牛市原遺跡 | 63. 淀原遺跡 |
| 5. 信友城跡 | 24. カニケ追遺跡 | 44. 亀谷八幡宮跡 | 64. オセド遺跡 |
| 6. 毛城跡 | 25. 馬場ヶ谷窯跡 | 45. 杉谷古墳群跡 | 65. 小蛤堂遺跡 |
| 7. 宇山B遺跡 | 26. 馬場ヶ谷B遺跡 | 46. 杉谷遺跡 | 66. 高見屋横瓦窯跡 |
| 8. 横谷遺跡 | 27. 馬場ヶ谷A遺跡 | 47. 長尾原B古墳 | 67. 福音寺跡 |
| 9. 大畑瓦窯跡 | 28. 原下遺跡 | 48. 長尾原A古墳群 | 68. 旅行村グランD窯跡 |
| 10. 七神社社務所裏
石棺墓群 | 29. 鷲瀬古墳群 | 49. 長尾原鉢跡 | 69. 出羽代官所跡 |
| 11. 宮ヶ谷遺跡 | 30. 清水ヶ尻窯跡 | 50. 道域遺跡 | 70. 光明坊1号間歩 |
| 12. 阿弥陀堂跡 | 31. 清水ヶ尻遺跡 | 51. 若林遺跡 | 71. 光明坊2号間歩 |
| 13. 崇聖寺原遺跡 | 32. 永明寺跡 | 52. 板屋裏瓦窯跡 | 72. 稲荷神社跡 |
| 14. 蛇池遺跡 | 33. 鈴追鉢跡 | 53. 江迫横穴群 | 73. 鉄穴内遺跡 |
| 15. 大西瓦窯跡 | 34. 二ツ山城跡 | 54. 江迫窯跡 | 74. 小谷遺跡 |
| 16. 才の神瓦窯跡 | 35. 竹前遺跡 | 55. 後鉄穴窯跡 | 75. 麗光坊遺跡 |
| 17. 石井追窯跡 | 36. 御草山古墳群 | 56. 淀原大堤鉢跡 | 76. 川ノ免遺跡 |
| 18. 淀原古墳群 | 37. 副城跡 | 57. 大堤下鉢跡 | 77. 滑遺跡 |
| 19. 上菅窯跡 | 38. 増屋横穴 | 58. 滝ヶ谷窯跡 | 78. 狼原上遺跡 |
| | 39. 出張遺跡 | 59. 沢陸遺跡 | 79. 狼原鉢跡 |

III. 調査の概要

1. 瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査

1. 調査区の概要

今回の詳細分布調査は、瑞穂町大字和田地内に所在する通称狼原において実施した。狼原は出羽盆地東端部、出羽川南側の河岸段丘上に位置している。周辺の河岸段丘状には川ノ免遺跡や滑遺跡など集落跡と考えられる遺跡が確認されている。

調査区内の地形は西側が河岸段丘上の平坦面となっており、中央部から東側にかけて徐々に標高が高くなり、東南部の尾根に続いている。

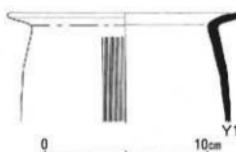
調査は平成10年度から11年度にかけて実施し、45カ所の試掘区を設定して実施した。以下その概要を報告する。

2. 平成10年度調査

道路西側を中心に11カ所の試掘区を設定した。調査区の大部分はかつて植林用苗木の苗圃として使用されており、その造成工事によりほとんどの場所で旧地形が失われていた。旧地形が残っていたのは、道路西側の平坦面の一部のみであった。第6試掘区から弥生時代中期の土器が出土したが、それに関連する遺構の確認はできなかった。

出土遺物（第3図、図版第1c）

Y1は壺である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸みをおびている。口径は14.4cm。内外面とも口縁部にはナデ調整が施されている。体部は外側にハケ目、内側にナデ調整が施されている。焼成は良好で、胎土には2mm程度の砂粒を含んでいる。色調はぶい褐色を呈している。時期は、口縁部の形状から、弥生時代中期のものと思われる。



第3図 出土遺物実測図（1:3）

3. 平成11年度調査

本年度は中央部から東側の尾根上を中心新たに34カ所の試掘区を設定した。本年度の調査では新たに調査区北側隅のごく一部にも旧地形が残っていることを確認したが、大部分の試掘区は大規模な苗圃の造成工事により旧地形が失われていた。

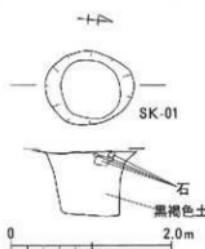
旧地形が残っている部分の試掘区からは、弥生土器をはじめとして数点の土器片が出土した。遺構としては、第6試掘区で土坑を検出した。

遺構

a. 土坑（第4図、図版第2a～c）

SK-01

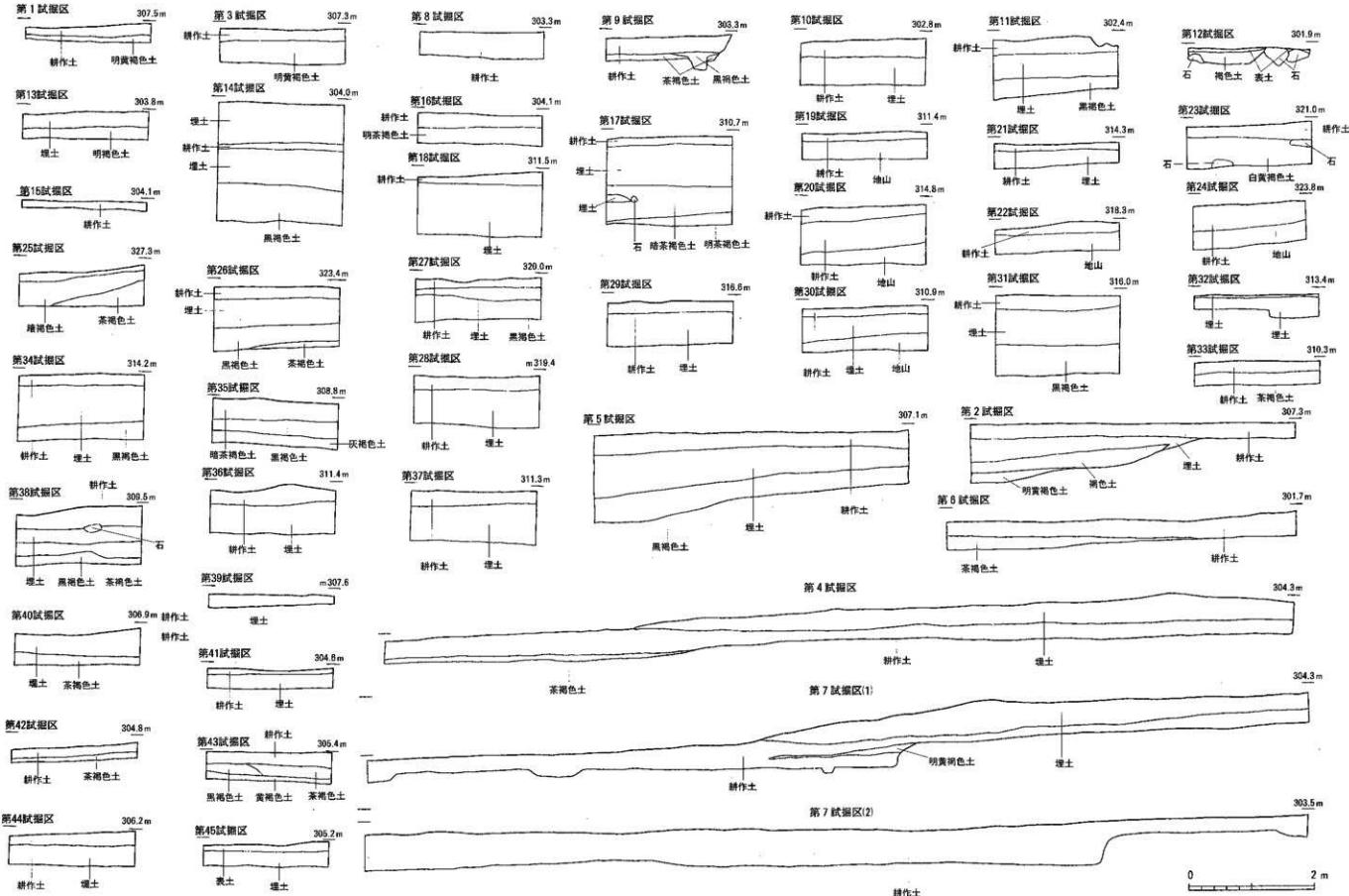
第6試掘区で検出した土坑である。径1.1m、深さ0.74mであった。壁が非常に固くつくられている。かつて肥料とするために、糞尿を溜める目的で使われたものと思われる。



第4図 SK-01 実測図（1:60）



第5図 瑞穂町大字和田原詳細分布調査地形測量図・試掘区配置図



第6図 瑞穂町大字和田畠原詳細分布調査試掘区土層図

2. 順庵原B遺跡発掘調査

1. 調査区の概要

順庵原B遺跡は、山羽盆地中央やや西側の出羽川南側の河岸段丘上の平坦面に位置している。また、四隅突出型埴丘墓である順庵原1号墓が隣接している。

遺跡の大部分は開墾により水田又は畑地となっているが、畑地については旧地形の尾根や谷に応じた若干の起伏が見られる。平成10年度調査については旧地形の尾根と思われる部分のうち住宅及び墓地の建設予定地のすべてについて調査区を設定した。平成11年度については四隅突出型埴丘墓の存在の可能性がある尾根先端部の平坦面に試掘区を設定した。

2. 平成10年度調査

i) 住宅建設予定地の調査

住宅建設予定地すべてについて調査を行った。今回の調査は住宅建て替えに伴うもので、古い家屋の取り壇し後、床下の擾乱土を重機で取り除いた。擾乱土除去後の状況を観察すると、南隅から北隅にかけて谷状の地形となっていた。

調査区内で溝状遺構と柵列状遺構を検出した。

遺構

a. 溝状遺構

SD-01 (第9図、図版第4c・5a)

調査区北側で、長さ6.7m、幅0.4m、深さ約10cmの溝状遺構を検出した。地山面からやや高いところで検出しており、畑作に伴うものである可能性が高い。

b. 柵列状遺構

SA-01 (第9図、図版第5b)

調査区南側で、柵列状の遺構を確認した。約1.8m～3.6mの間隔で5個のピットが並んでいた。ピットの間隔が正確に1.8mとなっていることを考えると、かつての家屋に伴うものである可能性が高い。

ii) 墓地建設予定地の調査

墓地建設予定地のすべてについて調査を行った。また、調査によって検出された遺構の範囲を確認するため、地権者の了解を得て一部、建設予定地外に調査範囲を拡大した。

調査の結果弥生時代の住居跡と奈良時代の住居跡を検出した。なお、これらの遺構は地権者の好意により、調査後に埋め戻しを行い保存することとした。

遺構

a. 壺穴住居跡

SI-01 (第10図、図版第5c～8b)

住居跡の一部の調査であったため、全体の形状や規模は不明であるが、調査した部分から推測すると、直徑8.8m～9.0mのやや形の崩れた円形の壺穴住居跡だったと思われる。

柱穴を結ぶと、内側と外側に2本の線が引かれ、さらに内側の線と外側の線の間、中央の土坑から約1.8m～2.0mのところにかつての壁の跡と思われる溝があり、この住居跡は少なくとも1度立

て替えられていると思われる。便宜上、内側の柱跡を使った住居跡をSI-01a、外側の柱穴を使った住居跡をSI-01bとする。この二つの住居跡の新旧関係は、造構内に堆積していた土が乱れていなかつたことから、外側の柱穴を使った住居跡の方が新しいと思われる。従って、最初に直径約3.6m～4.0mのSI-01aがあり、それを壊して直径8.8～9.0mのSI-01bを建てたものと思われる。

造構内堆積土からは、弥生時代中期から後期までの土器が多く出土した。床面から出土した土器の多くが後期前半のものであることを考えると、SI-01bは弥生時代後期前半のものと思われる。

出土遺物（第11～13図、図版第10～12b）

出土遺物の大多数は弥生時代後期の壺又は甕であるが、後世の擾乱による流れ込みと思われる弥生時代中期の土器と十師器が出土した。

弥生時代中期の土器

Y 1は弥生時代中期の壺又は甕の体部である。外面に斜行刺突文、櫛齒状工具による施文、棒状工具による刺突文が施されている。内面はナデの後、部分的に磨き調整が施されている。Y 2は高環の口縁部と思われる。

弥生時代後期の土器

甕又は壺

弥生時代後期の壺又は甕は口縁部の形状や施文によって4種類に分類される。

I類（Y 3～Y 9）

口縁端部がほとんど拡張しないもの。口縁部に沈線又は凹線が施されているものもある。

II類（Y 10～Y 18）

口縁端部が拡張し、内傾するもの。体部に刺突文や凹線文が施されているものがある。

III類（Y 19～Y 27）

II類からさらに口縁部が拡張するもの。口縁端部は、直立ないしやや外傾する。口縁部に沈線又は凹線が施されている。体部には刺突文が施されているものがある。

IV類（Y 28～Y 34）

拡張した口縁部に櫛齒状工具による施文があるもの。

底部（Y 35～Y 41）

いずれも壺又は甕の底部と思われる。底面がほぼ平らなもの（Y 37, 38, 42）、やや凹んでいるもの（Y 38, 40）、かなり凹んでいるもの（Y 39, 40）に分類される。

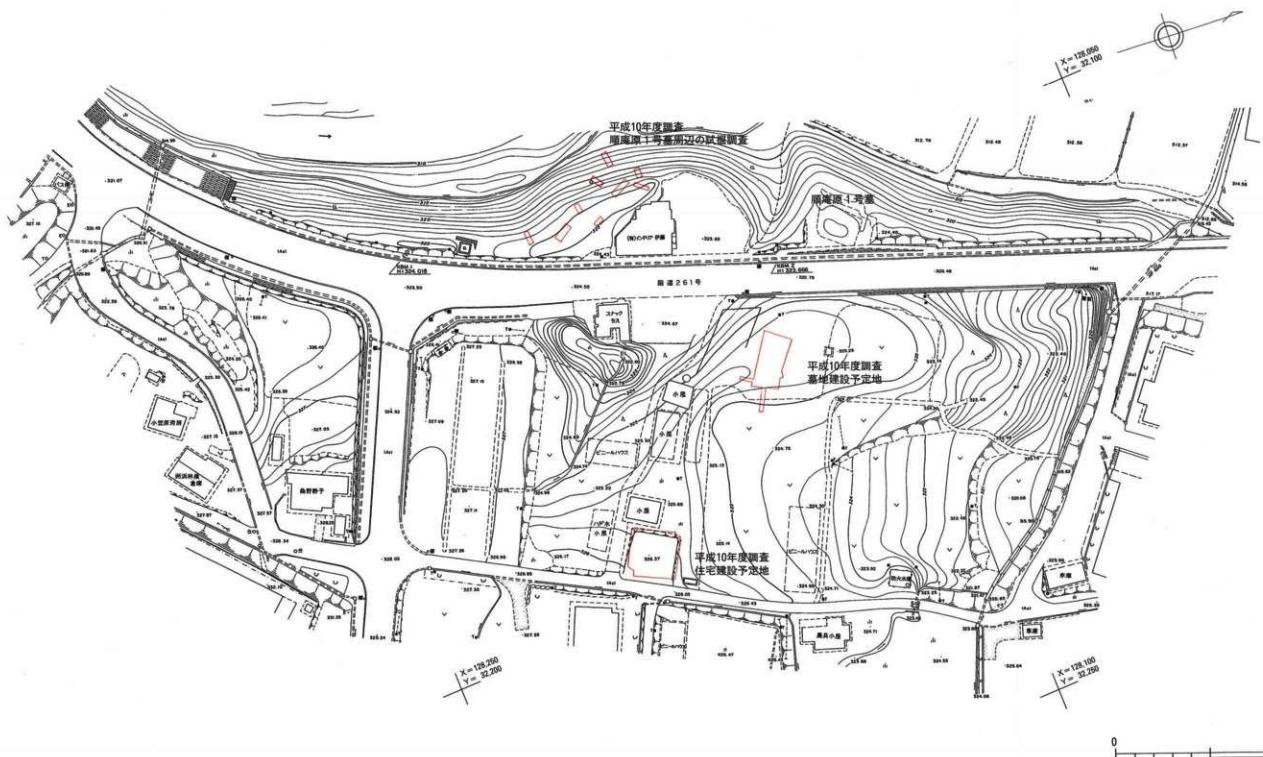
蓋（Y 42）

Y 42は壺の蓋である。時期は同時に出土した遺物や胎土の特徴から判断して、弥生時代後期と考えた。しかし、弥生時代前期から中期にかけても類似した形状の蓋があり、時代がさかのぼる可能性も否定できない。

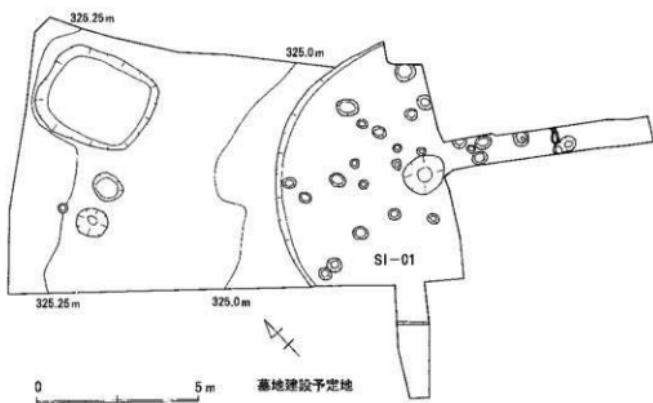
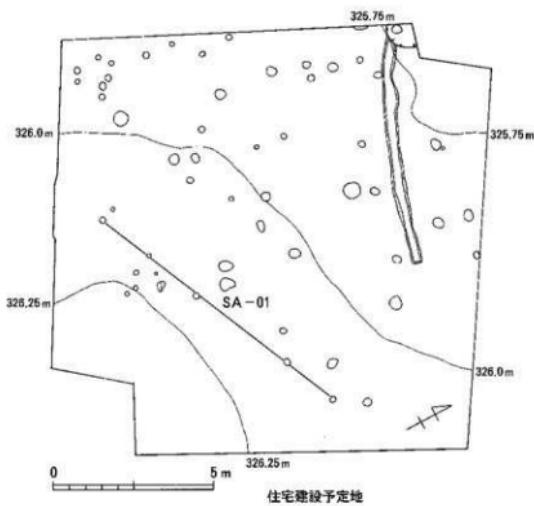
器種不明（Y 43）

Y 43は残存部分が口縁部とも底部とも考えられる形状であるため、器種不明とした。粘土を指でつまんで整形しただけの雑な作りで、指頭圧痕が認められる。

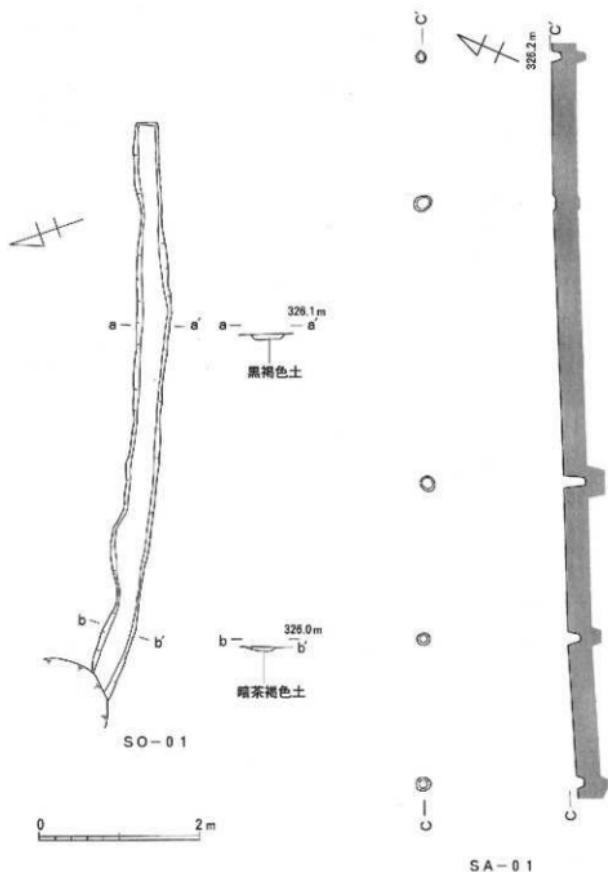
S=1:500



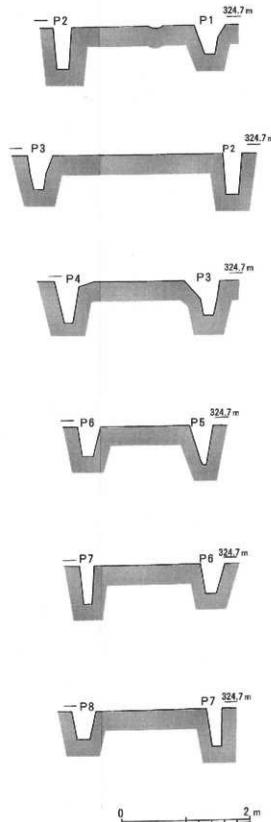
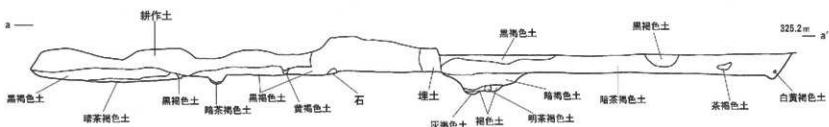
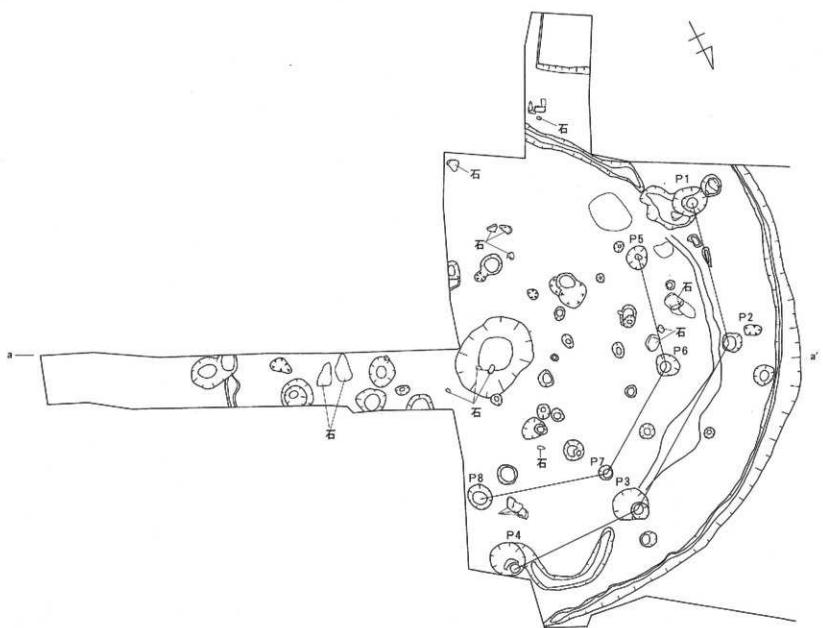
第7図 順庵原B遺跡発掘調査前地形測量図・調査区設定図



第8図 順慶原B遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配置図



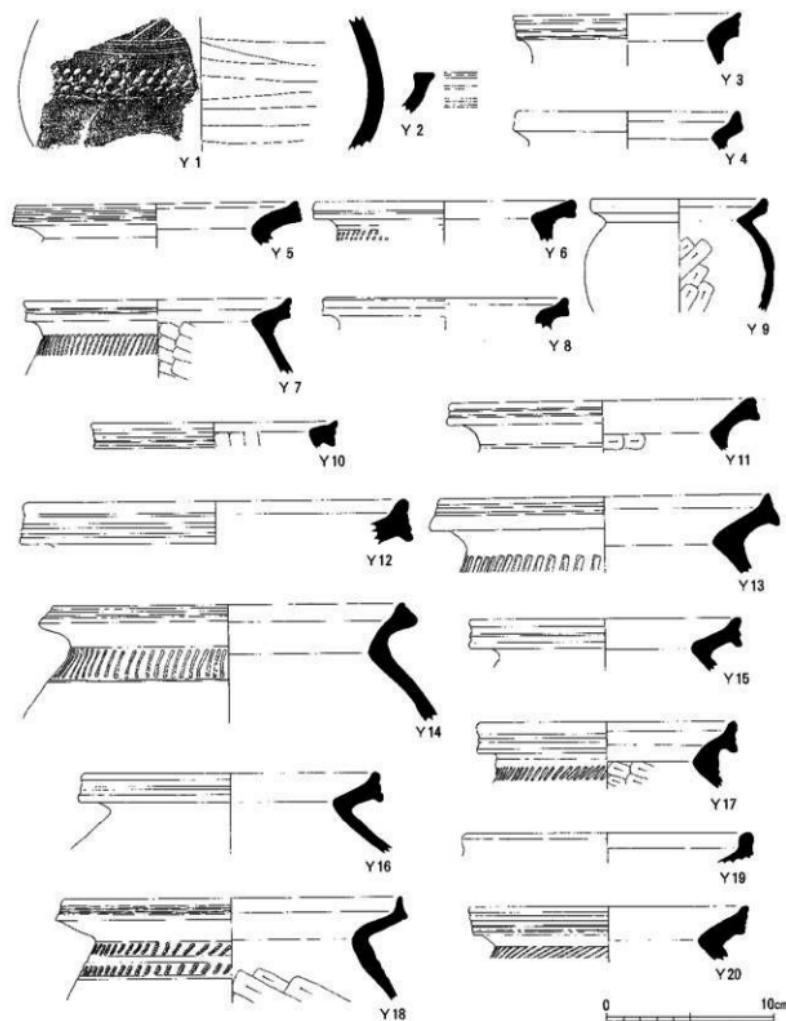
第9図 SD-01・SA-01実測図 (1:60)



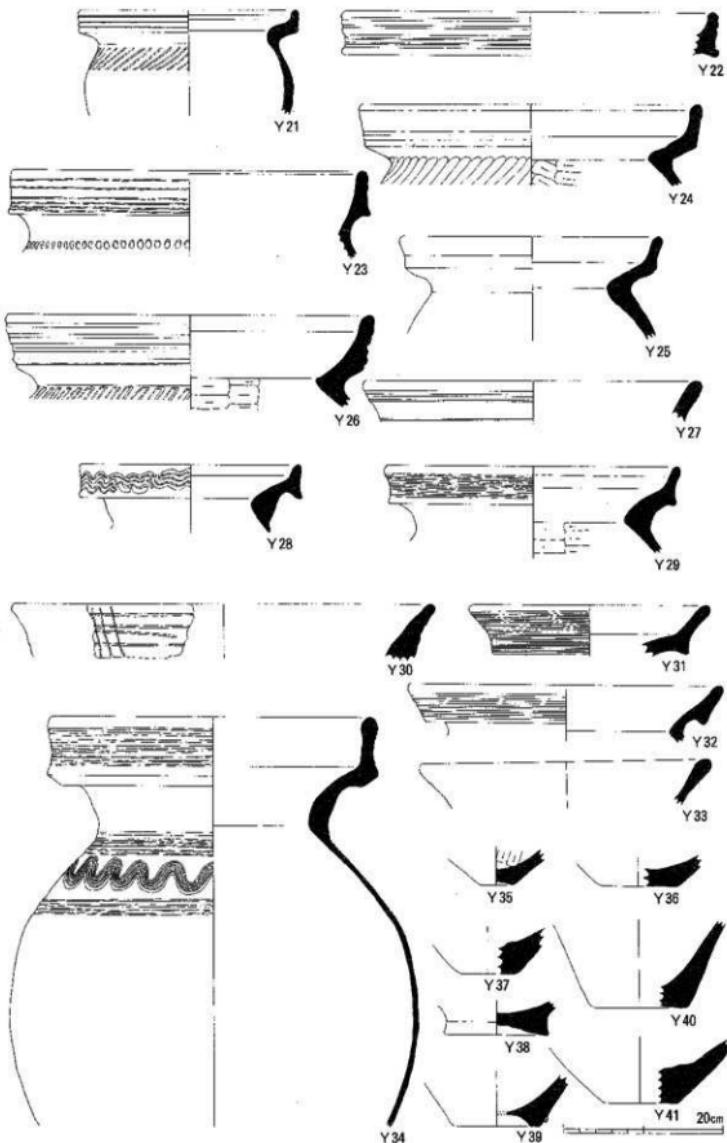
第10圖 SI-01 實測圖 (1:60)

土師器

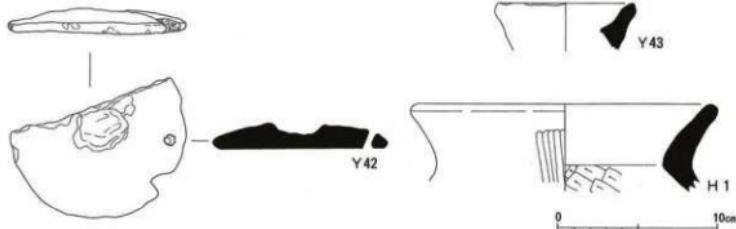
II 1は甕の口縁部である。口縁部は「く」字状を呈している。外面にヘラ磨き、内面体部にヘラ削りが施されている。



第11図 S I - 01出土遺物実測図(1)(1:3)



第12図 S I - 01出土遺物実測図(2)(1:3)



第13図 SI-01出土遺物実測図(3)(1:3)

SI-02(第14図、図版第8b~9)

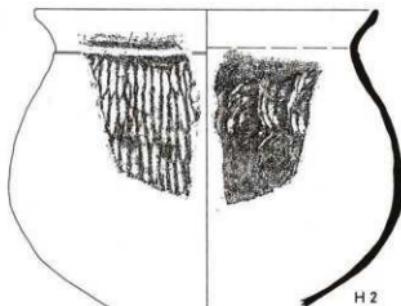
形状は約3.5m×2.5mのやや歪んだ長方形を呈している。柱穴等は床面に確認できなかった。一部床土が赤く変色し、その周辺から焼片が出土している。床面から土師器の甕が出土しており、その形状から時期は奈良時代と思われる。

出土遺物(第15図、図版第12c・13a)

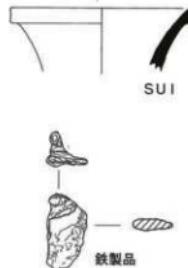
H1は床面から出土した甕である。口径は21.3cmあり、口縁部は「く」字状を呈している。体部外面に縦方向のタタキが施され、内面上部には、不鮮明な同心円状のタタキ目がみられる。焼成は良好で、胎土は密、色調は浅黄橙色ないし黄橙色を呈する。SU1は壺又は甕の口縁部である。口径は11.2cm、焼成は良好で、胎土は密、色調は緑黒を呈している。土器の他に、性格不明の鉄製品が出土した。



第14図 SI-02実測図(1:60)



第15図 SI-02出土遺物実測図(1:3)



遺構に伴わない遺物（第16・17図、図版第13b～15c）

遺構に伴わない遺物のはほとんどは弥生時代後期の土器である。壺又は甌の口縁部が大多数であるが、土器の底部や鉢も出土している。

壺又は甌の口縁部

壺又は甌の口縁部は、形状や施文によって5種類に分類される。

I類（Y 4 4 ～ 4 8）

口縁部がほとんど拡張しないもの。口縁部に沈線又は凹線文が施されている。

II類（Y 4 9 ～ 5 4）

口縁端部が拡張し、内傾するもの。体部に刺突文や凹線文が施されているものがある。

III類（Y 5 5 ～ 6 1）

II類からさらに口縁部が拡張するもの。口縁端部は直立ないしやや外傾する。口縁部には沈線又は凹線文が施されている。体部に刺突文や櫛齒状工具による施文が施されているものがある。

IV類（Y 6 2 ～ 6 6）

拡張した口縁部に櫛齒状工具による施文があるもの。

V類（Y 6 7 ～ 6 8）

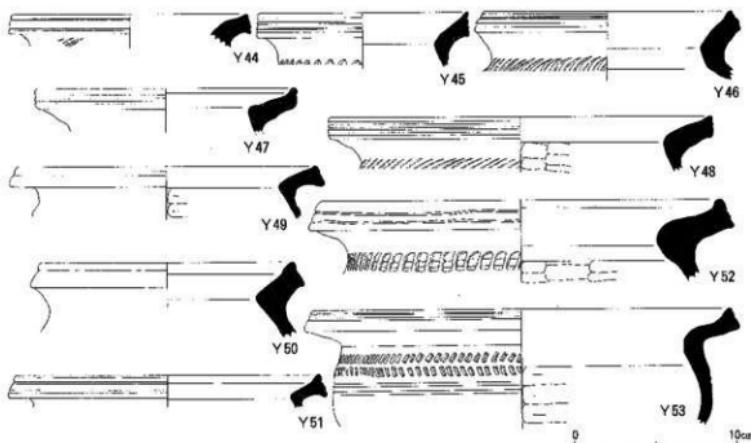
口縁部が大きく拡張し、無文のもの。

底部（Y 6 9 ～ 7 5）

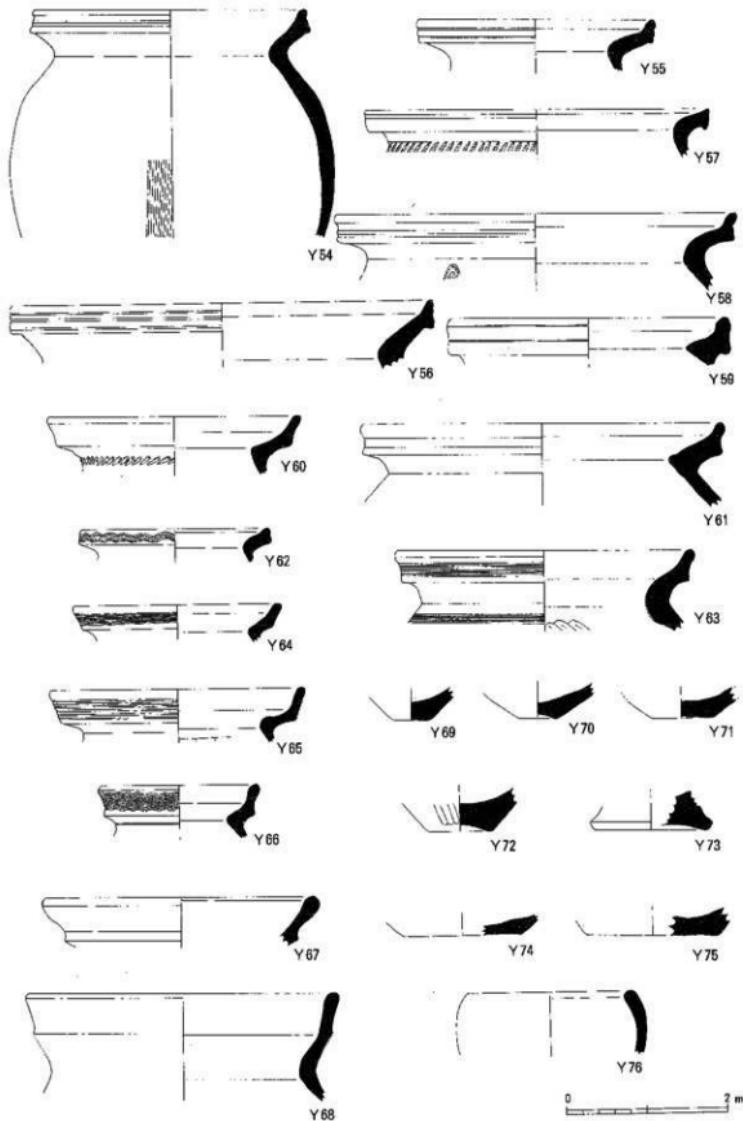
底が凹んでいるもの（Y 6 9 ～ 7 3）、底が平らなもの（Y 7 4 ・ 7 5）の2種類に分類される。

鉢（Y 7 6）

口径10.4cmの鉢である。焼成は良好で、1mm程度の砂粒を含んでいる。色調は外面が赤灰、内面が橙を呈している。



第16図 遺構に伴わない遺物実測図（1）（1:3）



第17図 遺構に伴わない遺物実測図（2）(1:3)

3. 平成11年度調査

順庵原1号墓周辺の試掘調査

順庵原1号墓の西約30mにある尾根上に9カ所の試掘区を設定した。

第5試掘区から縄文土器片と弥生土器片が出土したが、造構の確認はできなかった。

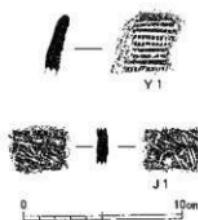
出土遺物（第18図、図版第16a）

縄文土器

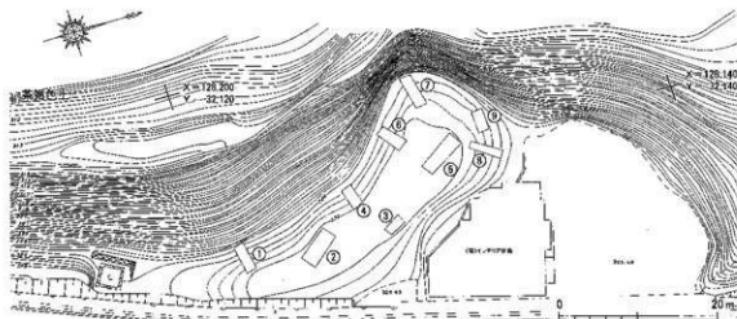
J1は縄文時代早期の土器で、両面に条痕文が施されている。

弥生土器

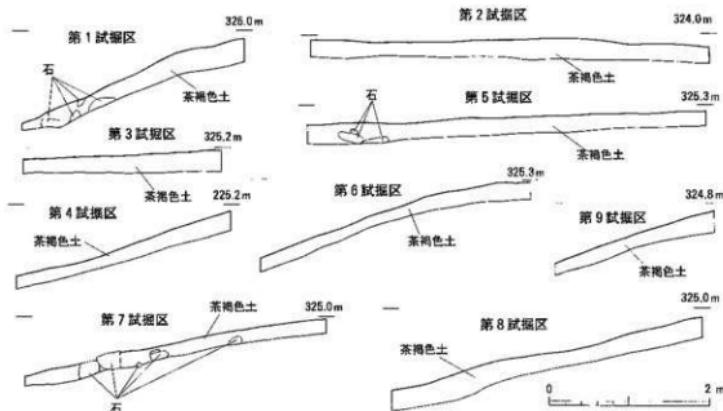
Y1は弥生時代中期の長頸壺の口縁部と思われる。全面に凹線又は沈線文があり、その間にヘラ状工具による刺突文が施されている。



第18図 順庵原1号墓周辺試掘調査出土遺物実測図
(1:3)



第19図 順庵原1号墓周辺試掘調査区地形測量図・試掘区配置図



第20図 順庵原1号墓周辺試掘調査試掘区土層図 (1:60)

3. 長尾原遺跡発掘調査

1. 調査区の概要

長尾原遺跡は出羽盆地中央部、出羽川南側の河岸段丘上に位置している。今回調査を行ったのは、遺跡西側の河岸段丘端部である。調査区周辺は開墾により水田となっているが、今回の調査区は畠地で残っており、開墾の影響は軽微であると思われる。

調査は、住宅建設及びそれに伴う工事で影響を受ける部分について行うこととし、まず構造の範囲を確定するためにカ所の試掘区を設定した。

2. 平成11年度調査

住宅建設予定部分を中心に24カ所の試掘区を設定した。試掘区 内から数点の土器が出土したほか、第試掘区で土坑を検出した。

遺構

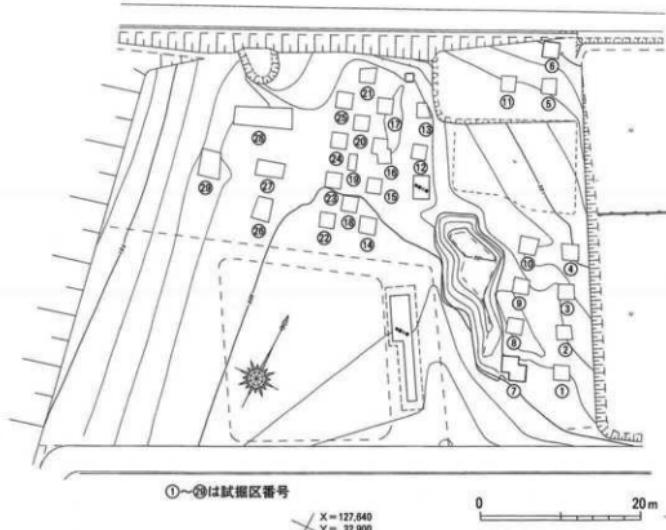
a. 土坑

SK-01 (第21図、図版第17c・18a)

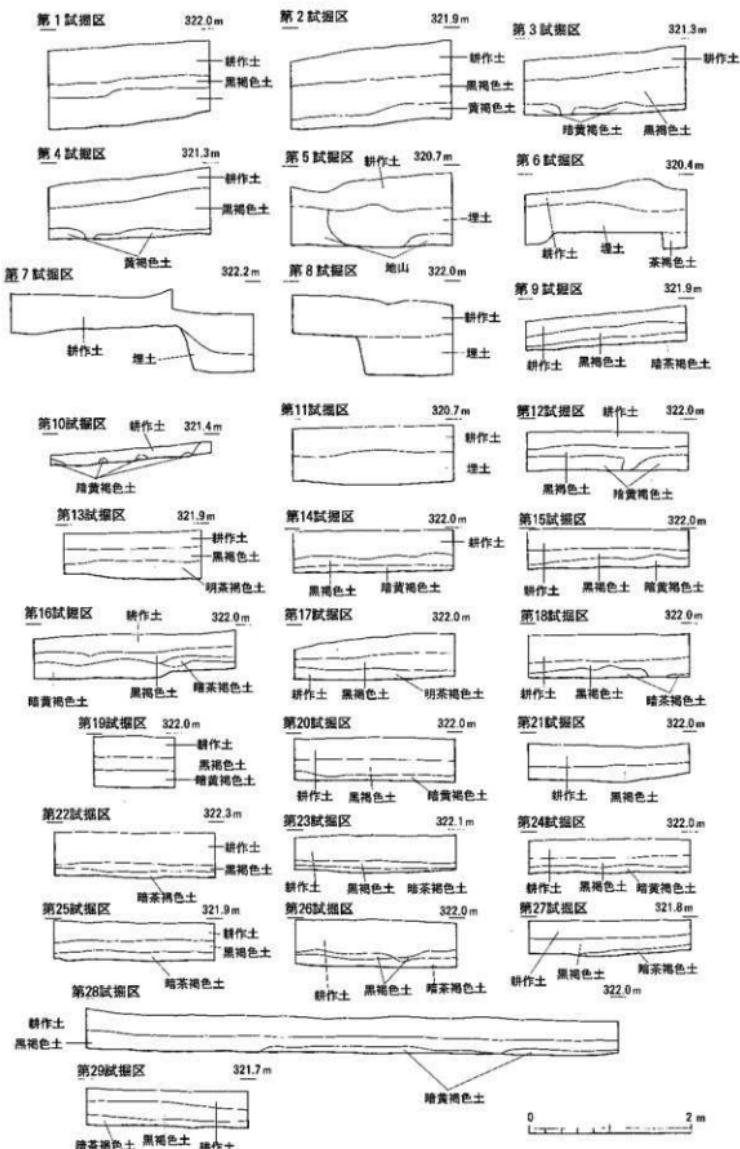
直径0.9m、深さ0.66mのほぼ円形を呈する土坑である。遺物の出土はなく、性格は不明である。



第21図 SK-01 実測図
(1:60)



第22図 長尾原遺跡地形測量図・試掘区配置図



第23図 長尾原遺跡試掘区土層図

第1表 平成10年度瑞穂町大字和田原詳細分布調査出土遺物観察表

遺物番号	押印番号	図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調整等
									外面	内面	
Y 1	3	1	弥生土器 麦	14.4	6.8	残	良好	2mm人の砂粒含む	にぶい 褐	にぶい 褐	ナデ 刷毛日

第2表 平成10年度瑞穂町大字和田原詳細分布調査出土遺物観察表(1)

遺物番号	押印番号	図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調整等
									外面	内面	
Y 1	11	10	弥生土器 不明			8.3	良好	密	浅黄	浅黄	術(縫文刺繡)による施 ナデの後一部削き
Y 2	11	10	弥生土器 高環			2.5	良好	密	浅黄橙	浅黄橙	ナデ
Y 3	11	10	弥生土器 麦	13.6		3.2	良好	1mm人の砂粒含む	灰褐	灰褐	3条の凹線 ナデ
Y 4	11	10	弥生土器 麦	13.2		2.3	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 橙	にぶい 橙	ナデ ヘラ削り
Y 5	11	10	弥生土器 麦	16.8		2.7	やや あまい	1mm人の砂粒含む	橙	橙	3条の凹線 ナデ
Y 6	11	10	弥生土器 麦	15.4		2.5	やや あまい	1mm人の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	1条の凹線 刺突文ナデ
Y 7	11	10	弥生土器 麦	16.0		4.5	良好	密	にぶい 黄橙	灰白	2条の凹線 刺突文削り
Y 8	11	10	弥生土器 麦	25.0		4.8	良好	3mm人の砂粒含む	橙		2条の凹線 ナデ波状文
Y 9	11	10	弥生土器 麦	10.4		7.0	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデヘラミガキ ヘラ削り
Y 10	11	10	弥生土器 麦	14.8		1.7	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3状の沈線ナデ ミガキ
Y 11	11	10	弥生土器 麦	18.2		3.2	良好	密	明黄褐	明黄褐	2条の沈線ナデ ヘラ削り
Y 12	11	10	弥生土器 麦	22.6		2.8	やや あまい	1mm人の砂粒含む	浅黄	浅黄	3条の凹線 ナデ
Y 13	11	10	弥生土器 麦	19.6		4.9	良好	密	灰黄褐	浅黄褐	2条の凹線ナデ 刺突文
Y 14	11	10	弥生土器 麦	21.0		7.3	良好	2mm人の砂粒含む	灰黄	灰黄	2条の凹線ナデ 斜行刺突文
Y 15	11	10	弥生土器 麦	18.0		3.3	やや あまい	1mm人の砂粒含む	浅黄褐	浅黄褐	2条の凹線
Y 16	11	10	弥生土器 麦	17.4		5.0	やや あまい	1mm人の砂粒含む	淡黄褐	淡黄	2条の凹線
Y 17	11	10	弥生土器 麦	15.2		4.1	良好	1mm人の砂粒含む	淡黄	淡黄	2条の凹線ナデ 刺突ヘラ削り
Y 18	11	10	弥生土器 麦	20.2		6.5	良好	1mm人の砂粒含む	浅黄褐	浅黄褐	2条の凹線ナデ 刺突ヘラ削り
Y 19	11	10	弥生土器 麦	17.0		1.8	良好	2mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ

第3表 平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表（2）

遺物番号	種別番号	図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎上	色調		調整等	
									外面	内面		
Y20	11	10	弥生土器	甕	16.6		残 3.4	あまい	3mm人の砂粒含む	浅黄橙	浅黄	4条の沈線ナデ斜行削尖文
Y21	12	11	弥生土器	鉢	13.6		残 6.5	良好	2mm人の砂粒含む	にぶい 橙	浅黄橙	3条の沈線ナデ斜行削尖文
Y22	12	11	弥生土器	甕	23.2		残 2.8	良好	2mm人の砂粒含む	灰黄褐	灰黄褐	5条の凹線ナデ
Y23	12	11	弥生土器	甕	22.0		残 3.4	やや あまい	2mm人の砂粒含む	黄橙	黄橙	6条の沈線ナデ
Y24	12	11	弥生土器	甕	21.0		残 5.0	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 橙	にぶい 橙	2条の凹線ナデ斜行削尖文削り
Y25	12	11	弥生土器	甕	16.2		残 6.1	やや あまい	2mm人の砂粒含む	にぶい 橙		ナデヘラ削り
Y26	12	11	弥生土器	甕	22.8		残 5.7	良好	3mm人の砂粒含む	にぶい 橙	にぶい 橙	5条の凹線ナデ斜行削尖文ヘラ削り
Y27	12	11	弥生土器	甕	21.0		残 2.6	良好	1mm人の砂粒含む	灰黄橙		3条の凹線ナデ
Y28	12	11	弥生土器	甕	13.8		残 4.2	良好	3mm人の砂粒含む	にぶい 橙黄橙		波状文
Y29	12	11	弥生土器	甕	18.4		残 5.3	良好	2mm人の砂粒含む	橙	にぶい 橙	橢円状工具による施文ナデヘラ削り
Y30	12	11	弥生土器	甕	26.4		残 3.5	良好	3mm人の砂粒含む	明黄褐橙		4条の凹線ナデ
Y31	12	11	弥生土器	器台	14.8		残 3.2	やや あまい	2mm人の砂粒含む	にぶい 橙	にぶい 橙	橢円状工具による施文ナデ
Y32	12	11	弥生土器	甕	19.6		残 3.5	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 橙	にぶい 黄橙	6条の沈線ナデ
Y33	12	11	弥生土器	器台	18.0		残 2.8	良好	1mm人の砂粒含む	橙橙		橢円状工具による施文ナデ
Y34	12	11	弥生土器	甕	20.0		残 25.5	良好	密	浅黄橙	褐灰	橢円状工具による施文ナデヘラ削り
Y35	12	12	弥生土器	底部		2.0	残 2.2	良好	1mm人の砂粒含む	灰褐	赤灰	ヘラ削り
Y36	12	12	弥生土器	底部		4.6	残 2.0	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	浅黄橙	不明
Y37	12	12	弥生土器	底部		3.2	残 2.9	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	黑褐	刷毛目
Y38	12	12	弥生土器	底部		6.4	残 2.1	良好	1mm人の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	ナデ
Y39	12	12	弥生土器	底部		5.2	残 3.2	良好	密	にぶい 黄橙	褐灰	不明
Y40	12	12	弥生土器	底部		5.8	残 5.3	やや あまい	3mm人の砂粒含む	橙明褐灰	褐灰	不明
Y41	12	12	弥生土器	底部		4.6	残 4.0	良好	1mm人の砂粒含む	にぶい 黄橙	浅黄橙	不明

第4表 平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表(3)

遺物番号	押印番号	図版番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調査等	
									外面	内面		
Y42	13	12	弥生土器	蓋	直徑 10.8		1.5	良好	1mm大の 砂粒含む	黒褐	黒褐	ナデ
Y43	13	12	弥生土器	不明	8.4		残 2.8	良好	1mm大の 砂粒含む	浅黄褐	浅黄褐	ナデ
Y44	16	13	弥生土器	甕	14.4		残 2.1	良好	密	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	沈線文刺突文 ナデ
Y45	16	13	弥生土器	甕	13.0		残 3.3	良好	2mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	3条の凹線文 刺突文ナデ
Y46	16	13	弥生土器	甕	15.4		残 4.3	やや あまい	2mm大の 砂粒含む	にぶい 褐灰	明黄褐	3条の凹線文 刺突文ナデ
Y47	16	13	弥生土器	甕	16.0		残 2.6	やや あまい	1mm大の 砂粒含む	浅黄	浅黄	2条の凹線 ナデ
Y48	16	13	弥生土器	甕	23.2		残 3.4	やや あまい	2mm大の 砂粒含む	橙黄褐		3条の凹線文ナデ 刺突文ヘラ削り
Y49	16	13	弥生土器	甕	18.5		残 3.2	やや あまい	密	灰白	褐灰	1条の凹線ナデ ヘラ削り
Y50	16	13	弥生土器	甕	15.8		残 4.7	良好	1mm大の 砂粒含む	浅黄褐	浅黄褐	ナデ刺突文
Y51	16	13	弥生土器	甕	18.8		残 2.0	やや あまい	2mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	2条の凹線ナデ
Y52	16	13	弥生土器	甕	24.8		残 5.1	良好	3mm大の 砂粒含む	浅黄褐	浅黄褐	2条の凹線ナデ 刺突文削り
Y53	16	13	弥生土器	鉢	26.0		残 7.2	良好	2mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	2条の沈線ナデ 刺突文ヘラ削り
Y54	17	14	弥生土器	甕	17.0		残 14.2	良好	1mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	浅黄褐	2条の凹線ナデ ヘラ削り刷毛日
Y55	17	14	弥生土器	甕	14.8		残 3.2	やや あまい	2mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	2条の沈線ナデ 刺突文
Y56	17	14	弥生土器	甕	26.4		残 4.2	良好	密	にぶい 黄褐	灰黄 褐黄	2条の凹線 ナデ
Y57	17	14	弥生土器	甕	21.6		残 3.0	やや あまい	密	にぶい 黄褐		1条の凹線ナデ 刺突文
Y58	17	14	弥生土器	甕	25.0		残 4.8	良好	3mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	波状文	2条の凹線ナデ
Y59	17	14	弥生土器	甕	15.2		残 4.1	良好	1mm大の 砂粒含む	淡黄	淡黄	2状の凹線ナデ 刺突文ヘラ削り
Y60	17	14	弥生土器	甕	15.8		残 3.6	良好	1mm大の 砂粒含む	浅黄 褐	浅黄 褐	ナデ刺突文
Y61	17	14	弥生土器	甕	22.4		残 5.2	やや あまい	3mm大の 砂粒含む	橙褐		刺突文
Y62	17	14	弥生土器	甕	11.8		残 2.1	良好	密	灰褐 黒褐	灰黄	圓筒状工具による波状文 ナデ
Y63	17	14	弥生土器	甕	18.6		残 5.0	良好	3mm大の 砂粒含む	赤褐	赤褐	圓筒状工具による施文 ナデ

第5表 平成10年度順庵原B遺跡出土遺物観察表(4)

遺物番号	押印番号	図版番号	器種	口徑(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調整等	
									外面	内面		
Y64	17	14	弥生土器	壺	13.0	残2.4	良好	密	黄褐	にぶい 橙	櫛齒状工具による施文ナデ	
Y65	17	14	弥生土器	壺	16.0	残3.4	良好	密	褐灰 橙	褐灰	櫛齒状工具による施文ナデヘラ削り	
Y66	17	14	弥生土器	壺	9.8	残3.3	良好	1mm大の 砂粒含む	灰褐	にぶい 黄褐	櫛齒状工具による波状文1条の沈線ナデ	
Y67	17	15	弥生土器	壺	17.0	残3.0	良好	1mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	ナデ	
Y68	17	15	弥生土器	壺	19.4	残6.7	やや あまい	2mm大の 砂粒含む	橙	橙	櫛齒状工具による波状文ナデ	
Y69	17	15	弥生土器	底部		2.2	残2.1	1mm大の 砂粒含む	灰黄褐	灰白	不明	
Y70	17	15	弥生土器	底部		3.0	残2.2	良好	1mm大の 砂粒含む	褐灰	黒褐	不明
Y71	17	15	弥生土器	底部		3.6	残1.8	良好	密	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	不明
Y72	17	15	弥生土器	底部		4.0	残2.7	良好	2mm大の 砂粒含む	にぶい 黄褐	灰褐	ヘラ磨きナデ ヘラ削り
Y73	17	15	弥生土器	底部		7.0	残2.4	良好	2mm大の 砂粒含む	にぶい 赤褐	灰赤	磨きナデ
Y74	17	15	弥生土器	底部		7.4	残1.3	良好	密	浅黄褐	浅黄褐	ナデ
Y75	17	15	弥生土器	底部		8.2	残1.7	良好	1mm大の 砂粒含む	浅黄褐	褐灰	不明
Y76	17	15	弥生土器	碗	10.4	残3.8	良好	1mm大の 砂粒含む	赤灰	橙	不明	
H1	13	12	土師器	壺	18.6	残5.4	良好	4mm大の 砂粒含む	橙		ナデ(刷毛日振繰る) ヘラ磨きヘラ削り	
H2	15	12	土師器	壺	21.2	残18.5	良好	密	淡黄褐 黄褐	淡黄褐 黄褐	平行叩き日ナデ	
SU1	15	13	須恵器	壺	11.2	残3.9	良好	密	緑黒 浅黄	緑黒	ナデ	

第6表 平成11年度順庵原B遺跡出土遺物観察表

遺物番号	押印番号	図版番号	器種	口徑(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調整等
									外面	内面	
J1	18	16	绳文土器	不明		残2.4	良好	2mm大の 砂粒含む	灰褐	灰褐	条良文
Y1	18	16	弥生土器	口縁部		残3.5	良好	1mm大の 砂粒含む	黑褐	黑褐	8条の沈線 刺突文

IV. まとめ

1. 瑞穂町大字和田狼原の遺跡詳細分布調査について

今回の調査は瑞穂町大字和田地内に所在する通称狼原の開発について検討するにあたり、遺跡の存在が予測されたことから、その範囲を確定するために行ったものである。

調査区は山羽川南部の河岸段丘上に位置し、周囲で川ノ免遺跡や滑道跡など、小規模な集落跡が確認されている。そのため、本調査区でもかなりの遺構が検出されると予測された。

しかし、調査区内は戦後の開墾により耕地化され、造林用苗木の苗圃として使用されていたため、かなり地形が変わっており、旧地形が残っているのはわずかな部分であった。

旧地形が残っている部分についても、少量の遺物は出土したもの、古代の遺構を検出することはできなかった。

これらのことと総合すると、かつては調査区内に遺構が存在していたものの、戦後の開墾によりそのすべてが破壊され、現在は調査区内に遺構は存在しないと思われる。

2. 順庵原B遺跡の発掘調査について

平成10年度調査は住宅建設予定地と、墓地建設予定地の2カ所について行った。このうち住宅建設予定地については古代の遺構は確認できなかった。

墓地建設予定地については、わずかな面積ながら竪穴住居跡2棟を検出したほか、弥生土器を中心として多くの遺物を収集することができた。

竪穴住居跡のうち1棟は順庵原1号墓の約20m南側に位置し、直径約9mという本町周辺では最大規模のものであった。住居跡内から出土した上器から判断すると、この遺構と順庵原1号墓はほぼ同時代、弥生時代後期前半のものであると考えられる。

四隅突出型墳丘墓の近くで大型の住居跡が確認されている例は、本遺跡以外では広島県千代田町の城ノ神遺跡⁽¹⁾と鳥取県淀江町の洞ノ原遺跡⁽²⁾がある。残念ながら四隅突出型墳丘墓と大型住居の関係については明らかになっていないが、今後の調査例の増加が望まれる。

竪穴住居跡の他の1棟は出土した上器の特徴から判断して奈良時代のものと思われる。本遺跡周辺では平成6年度と7年度に発掘調査が行われているが、検出された遺構は弥生時代以前のものばかりであり、発掘調査によって奈良時代の遺構が確認されたのは今回が初めてである。順庵原B遺跡において、須恵器が表採されているのは、この住居跡から北側にかけてであり、遺跡の南側に弥生時代を中心とする集落跡、北側に奈良時代を中心とする集落跡があったようである。

平成11年度調査は、以前から四隅突出型墳丘墓存在の可能性が指摘されていた順庵原1号墓から谷を挟んだ南側の尾根上で行った調査である。調査区内にまず9カ所の試掘区を設定した。

調査の結果、尾根の斜面部に設定した試掘区で河原石を検出した。しかし、検出した石は人為的なものではなく、四隅突出型墳丘墓の貼り石と考えることはできなかった。また、尾根上の平坦面においても主体部は検出できなかった。さらに、出土遺物も縄文土器片1点と、弥生時代中期の土器片1点のみであった。これらのことと総合すると、今回調査を行った尾根上には、四隅突出型墳丘墓は存在しないと考えられる。

3. 長尾原遺跡の発掘調査について

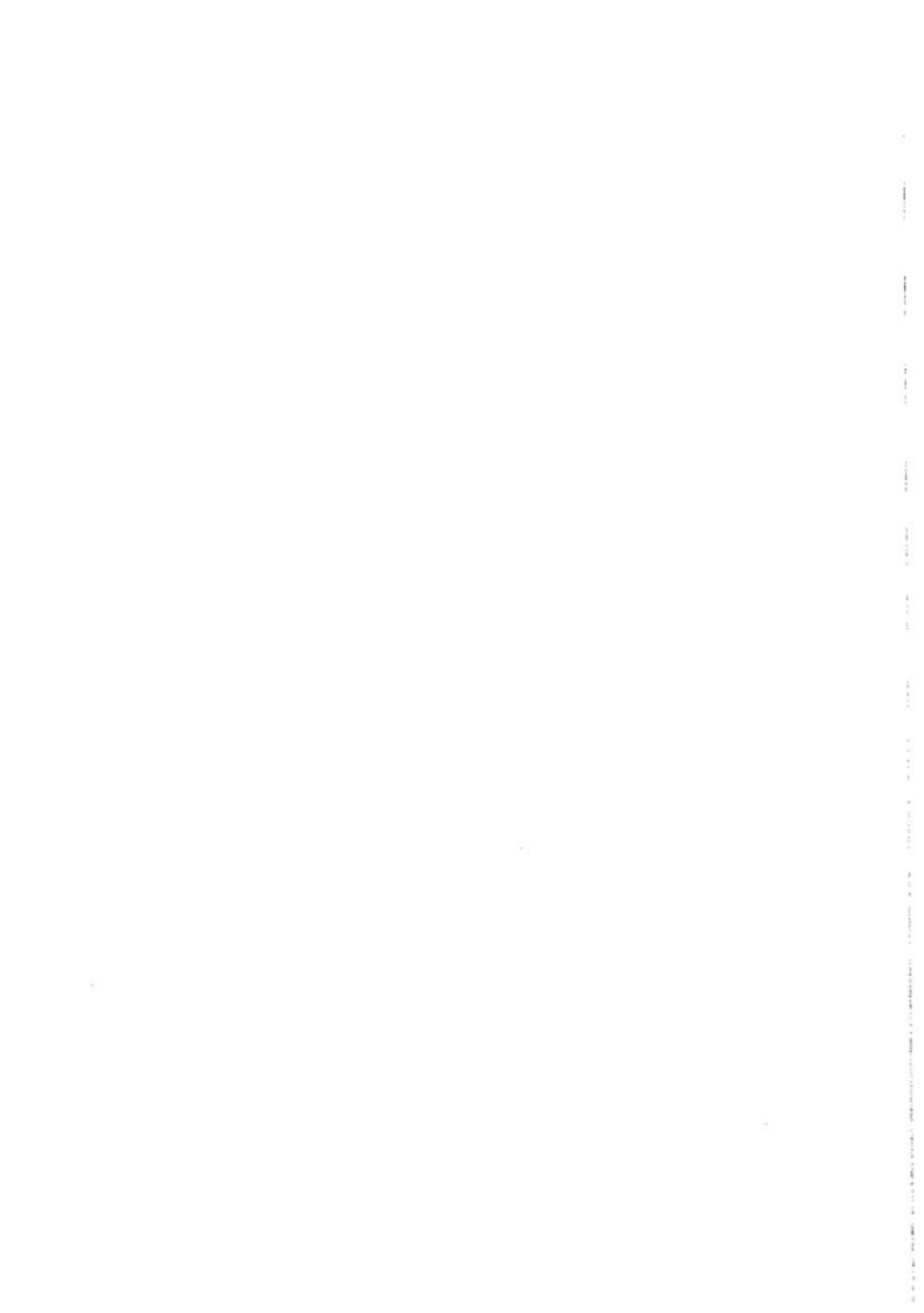
今回の調査は、住宅建設予定地内において、遺構の有無を確認するために行われたものである。調査はまず29カ所の試掘区を設定し、遺構の有無を確認した。試掘区内から出土した遺物は、数点の上器片のみであった。遺構としては、土坑を1基検出したが、性格は不明である。

試掘区の遺構検出状況や遺物出土状況からから考えて、住宅建設予定地全面の発掘は必要ないと判断し、試掘区内の調査のみとした。

註

- (1) (財) 広島県埋蔵文化財調査センター「城ノ神道路」「城ノ神遺跡・中出勝負崎墓群」1986年。
- (2) 渡江町教育委員会 大山町教育委員会「洞ノ原遺跡(埴塚群) 発掘調査概要説明書」1997年。

図 版



図版第1

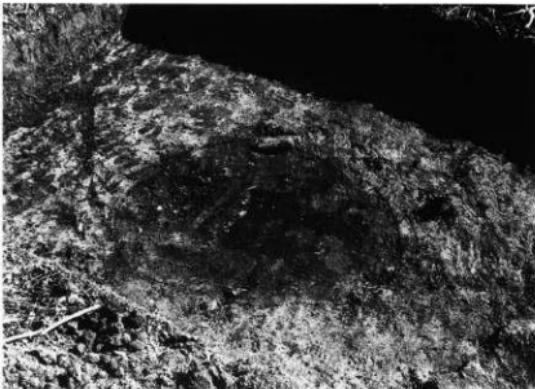


Y1

C. 出土遺物

図版第 2

a. SK-01 検出状況
(北から)



b. 同 断面土層 (南から)



c. 同 完掘状況 (同)



図版第3

a. 第2試掘区土層
(南から)



b. 第18試掘区土層 (同)



c. 調査の様子



図版第4

a. 順庵原B遺跡遠景
(南西から)



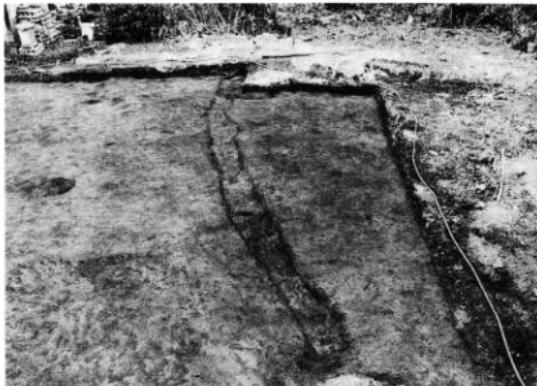
b. 同 近景 (北から)



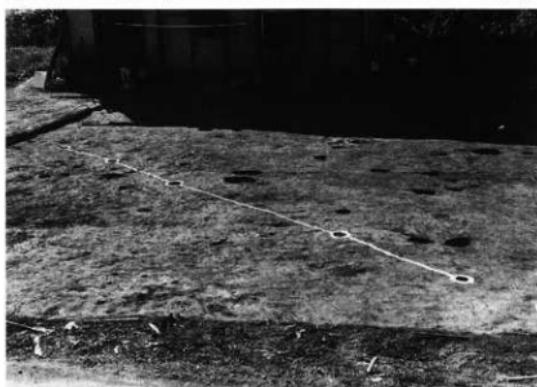
c. SD-01 検出状況
(東から)



図版第5



a. SD-01 完掘状況
(東から)



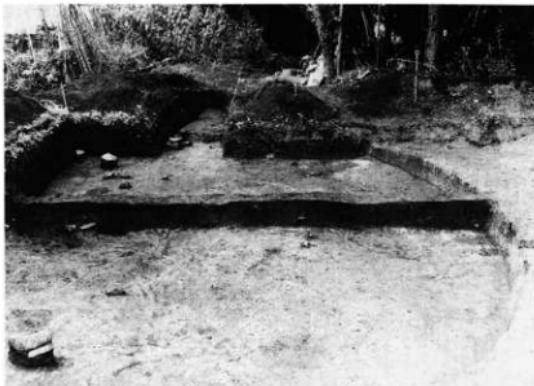
b. SA-01 完掘状況
(同)



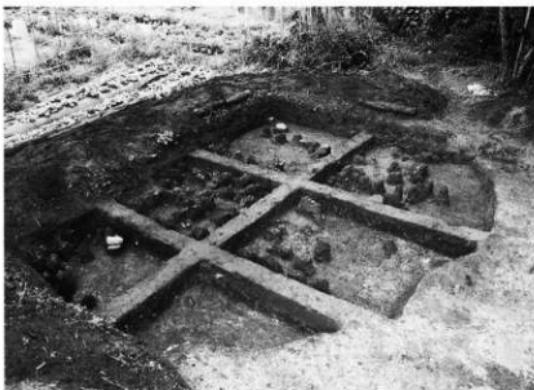
c. SI-01 検出状況
(南東から)

図版第 6

a. SI-01 土層断面
(北から)



b. 同 遺物出土状況 (同)



c. 中央SK 検出状況
(北西から)

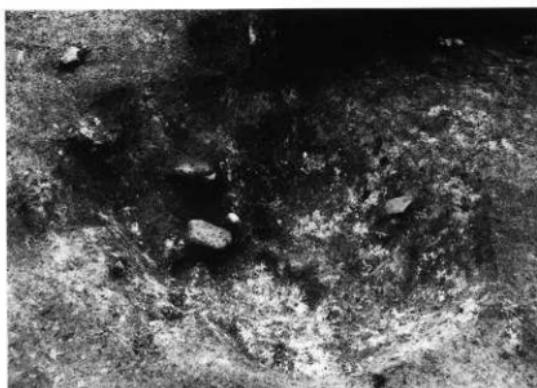


図版第 7

a. 中央SK 断面土層
(北から)



b. 同 完掘状況
(北西から)



c. SI-01a
壁溝検出状況
(北から)



図版第 8

a. SI-01 完掘状況
(北から)



b. SI-02・SI-01
検出状況 (北西から)



c. 同 土層 (北東から)



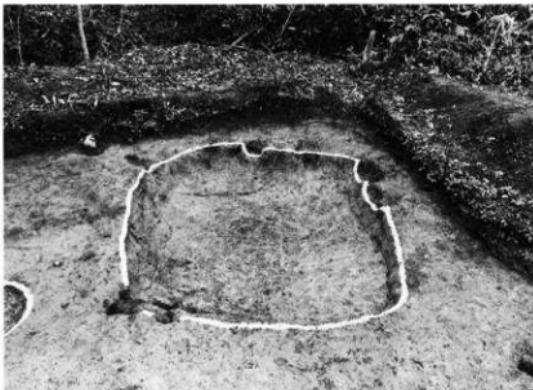
図版第9



a. SI-02 遺物出土状況
(南から)

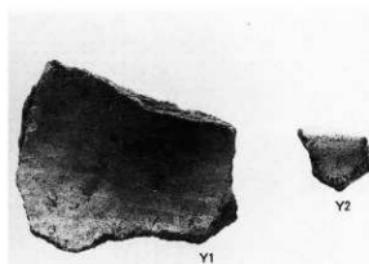
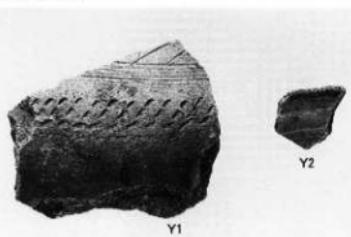


b. 同 土師器出土状況

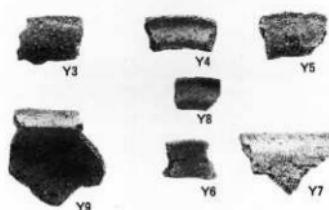
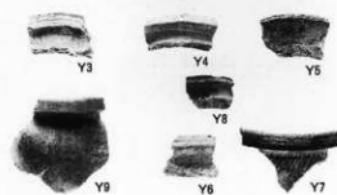


c. 同 完掘状況 (東から)

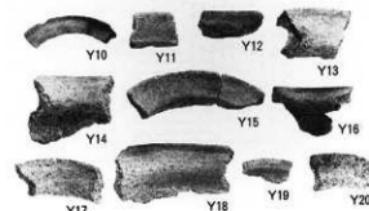
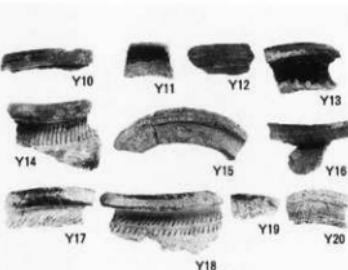
图版第10



a. SI-01 出土遗物

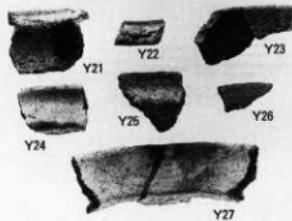
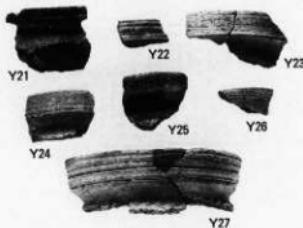


b. 同



c. 同

図版第11



a. SI-01 出土遺物

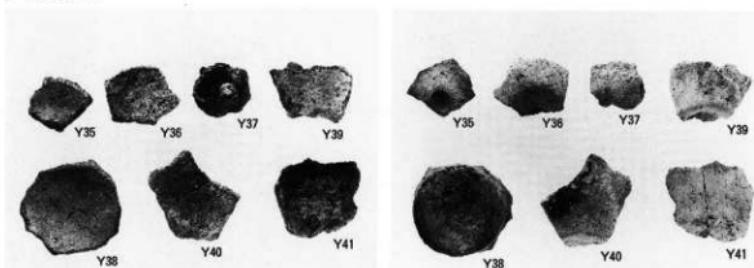


b. 同

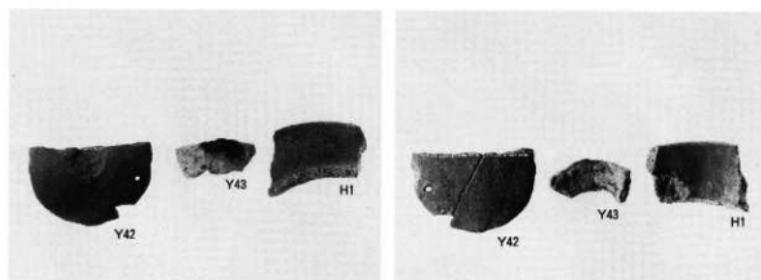


c. 同

図版第12



a. SI-01 出土遺物

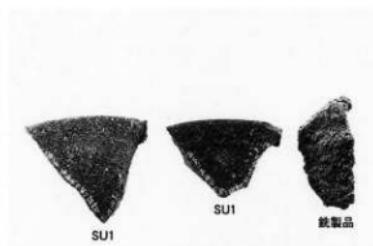
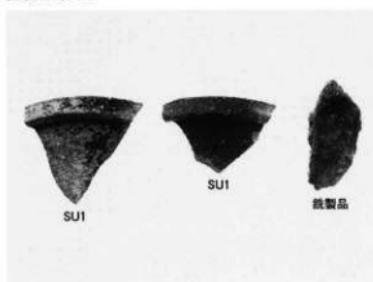


b. 同

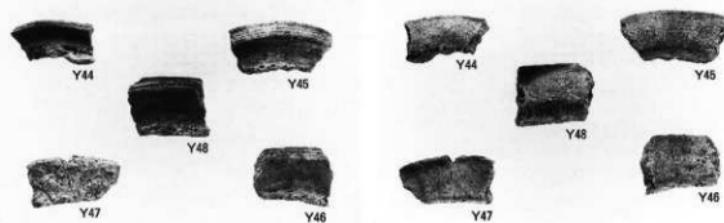


c. SI-02 出土遺物

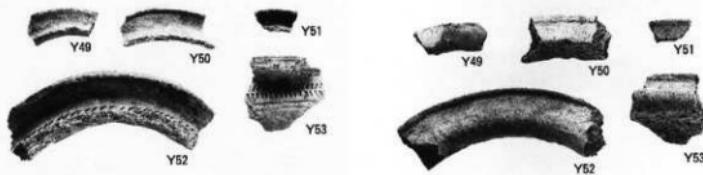
図版第13



a. SI-02 出土遺物

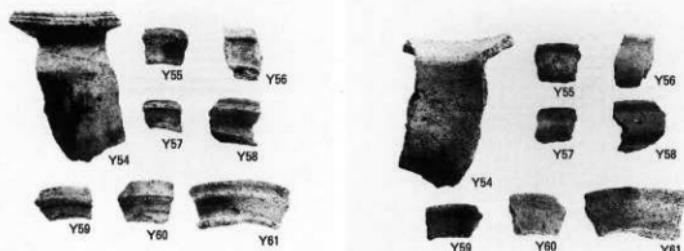


b. 造構に伴わない出土遺物

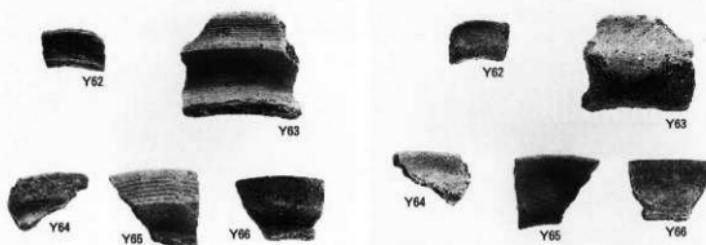


c. 同

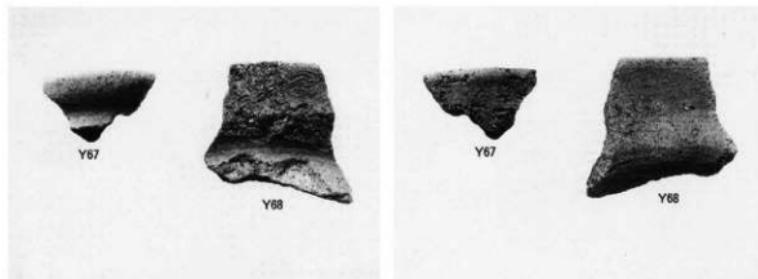
図版第14



a. 遺構に伴わない出土遺物

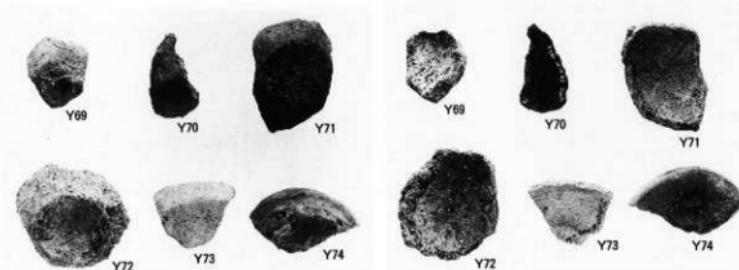


b. 同



c. 同

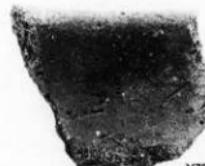
図版第15



a. 遺構に伴わない出土遺物

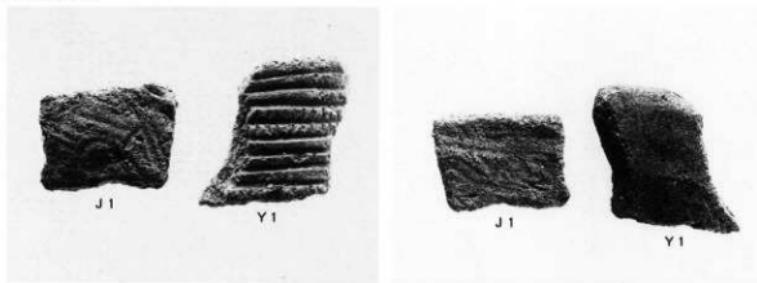


b. 同



c. 同

図版第16



a. 平成11年度調査出土遺物



b. 平成10年度調査説明会の様子



c. 同

図版第17

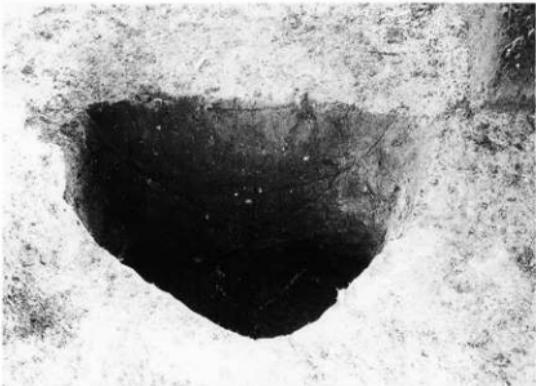
a. 長尾原遺跡遠景
(西から)



b. 同 近景 (東から)



c. SK-01 断面土層
(北から)

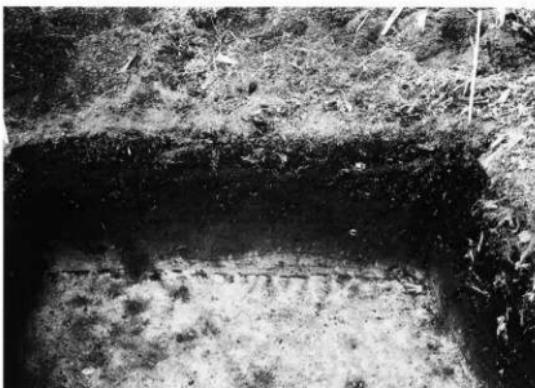


図版第18

a. SK-01 完掘状況
(北から)



b. 第4試掘区土層 (同)



c. 第10試掘区土層 (同)

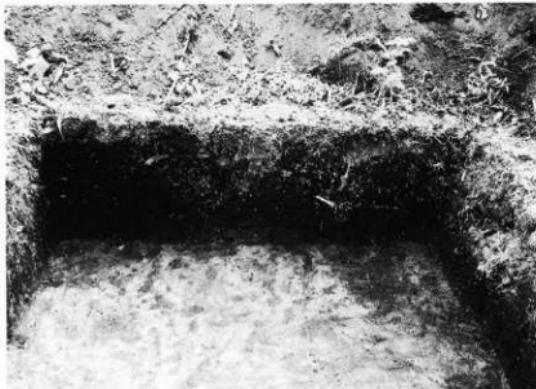


図版第19

a. 第14試掘区土層
(北から)



b. 第22試掘区土層 (同)



c. 調査の様子



報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうさとうほうこくしょ							
書名	町内遺跡発掘調査等報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第23集							
編著者名	藤田 瞳 弘							
編集機関	瑞穂町教育委員会							
所在地	〒696-0393 島根県邑智郡瑞穂町人字一ノ日市32番地 〒 0855-83-1121							
発行年月日	西暦 2000年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		町村	遺跡番号					
瑞穂町大字 和田狼原	島根県邑智郡瑞穂町 大字和田	32445		34度 51分 25秒	132度 33分 23秒	19970528~ 19941130	280	詳細分布調査
順庵原B遺跡	島根県邑智郡瑞穂町 大字「角谷」2178-12外			34度 50分 38秒	132度 31分 05秒		280	住宅建設 墓地建設
長尾原遺跡	島根県邑智郡瑞穂町 大字下龜谷919-3			34度 50分 57秒	132度 31分 35秒		130	住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
瑞穂町大字 和田狼原	散布地	弥生時代	土坑	弥生土器				
順庵原B 遺跡	集落跡	弥生時代 奈良時代	住居跡	弥生土器 土師器 須恵器		直徑約8.8~9.0mの住居 跡		
長尾原遺跡	集落跡	弥生時代	土坑					

平成12年（2000年）3月

島根県邑智郡瑞穂町

町内遺跡発掘調査等報告書

編集・発行 島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

印 刷 柏 村 印 刷 株 式 会 社